

## 編集後記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関にセンターの活動を紹介するための情報源としてだけでなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割があります。センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報(第22号)は、22年度目に当たる令和3年度の活動を記録したものです。

令和3年度は、大原利眞所長が第五代目の研究所長として就任し、これまでにない新たな視点から様々な取組みがなされました。その代表として「研究所中期取組方針の策定」が挙げられます。

環境問題を巡る状況は今まさに大きく変化しており、センターは地域社会のニーズの変化に中長期的・国際的・分野横断的な視野を持って柔軟に対応していく必要があります。そこで、私たちは一年にわたり様々な議論を積み重ね、研究所の今後5年間の方向性を示す「中期方針」を作成し、これを羅針盤として地域環境に係る調査研究を進めることとしました。

本方針では、特に重要性・喫緊性の高い環境課題である「気候危機への地域対応」、「生物多様性の保全・管理」、「環境技術開発」、「災害・事故への対応と備え」を重点研究と位置付け、分野を超えて全所一丸となって取り組むこととしました。また、研究成果の地域社会への実装及び地域社会との連携・協働を進めるために、研究活動と地域社会を結ぶ機能を強化することとしました。

これらの目標を達成するため、既に設置されている気候変動適応センターの基盤強化を図るとともに、生物多様性センター、社会実装化コア・危機対応コアを新たに設けて連携・協働の取組を進めることとしました。

今後、センターではこれまで重点的に取り組んできた試験研究、国際貢献、情報発信、環境学習の4つの機能だけでなく「社会貢献」を前面に掲げて地域協働を進めていく所存です。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものですが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負っています。

令和4年12月

編集委員一同

### 〈編集委員会〉

八戸昭一(研究推進室長)	三輪誠(研究推進室)
長谷隆仁(資源循環・廃棄物担当)	金子一代(事務局)
横塚敏之(研究企画室)	武藤洋介(温暖化対策担当)
佐坂公規(大気環境担当)	松本利恵(大気環境担当)
安野翔(自然環境担当)	落合祐介(化学物質・環境放射能担当)
木持謙(水環境担当)	石山高(土壌・地下水・地盤担当)

### 〈協力者〉

嶋田知英(研究企画室長)	茂木守(研究推進室)
--------------	------------

埼玉県環境科学国際センター報

第22号 令和3年度

令和4年12月28日発行

発行:埼玉県環境科学国際センター